筒森トンネルだより

発行元:五洋・片岡特定建設工事共同企業体

夷隅郡大多喜町葛藤
603-1
0470-80-9467
渡辺　憲一

筒森トンネル貫通！

筒森トンネル貫通の瞬間

平成23年5月から掘削を開始した「(仮称)筒森（1号）トンネル」も、約7ヶ月の工事期間を経てついに平成23年11月24日午前10時、貫通いたしました。

貫通は前日の夜勤作業で薄皮一枚（約50cm）を残して準備した部分を、一気に掘り進めました。天候には恵まれましたが、あいにく太陽の向きは横方向だったため貫通の瞬間に日差しが差し込むという劇的な場面とはなりませんでした。

トンネルの貫通は今回のように地表とつながる場合と、地中でトンネル同士がつながる場合があります。地中の場合は双方が暗いのであまり光は入ってきません。やはり地表とつながる方が光が差し込み、トンネルの貫通らしいと言えます。

掘削開始当初の区間は地層に亀裂も多く、降雨により浸透した地下水がトンネル内に落下し、ダンプトラックが走行する路面が泥々となり難渋しました。また地表とトンネルとの間（土被り）が小さい区間では、地表面への影響も考えられましたがほとんど変化はみられませんでした。

起点側貫通の瞬間

トンネルを掘削した残土（ズリと言います）は将来バイパスとなる大曲の谷地に盛土しました。今現在は下から見上げるとずいぶん高いと思われるかもしれませんが、これから先、バイパスとして利用されると聞いています。

今回、この「(仮称)筒森（1号）トンネル」を掘るために、沖縄から青森までの厳選されたトンネル工事のプロが参集しました。発注者・施工者が一致協力し、また地元の方々のご協力のおかげで無事貫通を迎えることができました。この紙面を借りて深くお礼申し上げます。

貫通点

筒森トンネルのホームページには、この貫通の際の写真や動画を載せております。動画では切り羽に穴が開き光が差し込む場面を見ることができます。どうぞご覧ください。

トンネル工事に関わった人々

12月の工事予定

12月は切り羽での掘削作業はありませんがインバートを施工してまいります。またトンネル覆工作業も継続して行います。

引き続きダンプトラックと生コン車が国道出入りをしますのでご協力をお願いします。

また、掘削完了に伴い使用した重機や仮設備の撤去搬出を行いますので大型レッカーによる作業や大きなトレーラーの出入りもあります。安全には十分配慮して作業してまいります。

トンネル余話

房総半島には「川廻しのトンネル」と言うものが数多く存在します。ここ養老川の支流にあった「弘文洞」がその代表ですが、今は崩落して深い谷になっています。

川廻しというのは、狭い山域で水田の用地を得るためなどの目的で行われた河川土木技術です。蛇行している河川で、ひとつ山を挟むだけの上流・下流が近接するところ同士などをトンネルでつないでしまってバイパスさせると、それによって流れが変わって干上がった旧河川床ができ、この土地を農地などに利用するというもので、主に江戸期に盛んに行われたものと思われます。

このようなトンネルは、そうした古い時代のものですので、むろん掘っただけの素掘りです。既に永い年月の経過で自然に溶け込んでいるため、自然の洞窟と勘違いされる場合も少なくありませんが、通常の風化作用によってそう簡単に川のトンネルは出来ません。

トンネルによって農地を得た先人達の知恵と努力に敬服します。